

第2回徳島市立中学校制服のあり方検討委員会 議事録（概要）

日時 令和6年10月22日（火）10時30分～12時00分

場所 徳島市役所11階 教育委員会室

◆ 議 事

（1）今後の中学校制服のあり方について（資料2）

【論点1】 制服の必要性は

（委員）

思っていた以上に、皆さんが制服の必要性を感じている。教員や保護者が必要としているのはわかるが、子供たちも制服を必要と感じている割合が高く、全体の傾向としては、やはり制服が望まれているという印象である。

（委員）

小学校はどちらかといえば自由服の子供たちが多いが、卒業式の際に中学校の制服を着て参加する子供たちもあり、憧れがあるのだろうと思っていたので、この結果は妥当である。制服があることで、中学校で頑張っていこうという心構えができていくような気がするので、中学校の制服があってもよいと思う。

（委員）

否定的意見では、やはり価格の面での意見が多いので、価格が抑えられるのであれば制服があってもよいと思う。私服のほうが経済的との意見もあるが、私服といっても金額はバラバラであり、普段着であれば制服と比較すると安価であるが、式典の際に着用するものが必要になる。式典の際は、制服だと見た目も美しいかなと思う。

（副委員長）

全体的に、制服については必要であるという方向性である。

【論点2】 制服を変える必要性があるか

（委員）

制服を見直す必要性が「あると思う」、「やや思う」と答えた割合が非常に多い。学校の教員も保護者も中学生も、やはり暑さ寒さへの対応や動きやすさ、多様性への観点で見直す必要があるのだと感じていることが非常によくわかる。

(委員)

制服を見直す必要性について、「やや思う」と答えた割合が多いことについては、(制服を見直すこととなった場合に) 価格や洗濯のしやすさ、材質やデザインといったものが、ぼんやりとしか見えないという不安がここに表れているのではないかと感じる。しかし、イメージがまだ十分できない中で、この割合となるとやはり多い印象である。

(委員)

全体のうち、制服を見直す必要があると思う、やや思うと答えた割合が一番多いのが教員であることは少し驚いた。子供たちのことを考え、機能性の面から変えたほうがよいのではないかと考えている教員がたくさんいることが嬉しい。

(委員)

教員は、子供たちや保護者から様々な相談を受けるので、今の制服のままでは厳しいという意識があるのかもしれない。

(副委員長)

制服を変える必要があるということによいか。

(委員)

保護者も子供たちも、このように見直すべきだと思っているのであれば、前向きに検討をしてもよいと思う。

【論点3】 標準制服の導入是非について

(委員)

やってみないとわからないところはあるが、他県で導入されている学校はどうか。他の学校との区別はどうなっているのか。

(事務局)

インターネットで調査をしたところでは、想定よりも運用上の困難は生じていないと回答した教員が多い、と分析している市がある。保護者や生徒にも導入後のアンケートを実施している市町村もあり、概ね肯定的であると拝見している。

大体の学校が、従来の制服を残したまま、標準制服をもう一つの選択肢という形で導入している自治体が多く、今の制服が着られなくなってしまうわけではないので、肯定的な意見が多いのではと考える。この後の論点にもあるが、学校ごとに一斉更新

にするのか、併用を可能にするのか、更新時期を定めるのか、標準制服を採用するかどうかについて、学校ごとの判断としているところも多いため、学校と保護者が話し合い、事前に調整していると思われる。

(副委員長)

どのような制服に変えているのか。傾向のようなものはあるか。

(事務局)

調査したところ、全てブレザータイプである。下衣は、女子男子ともにスラックス1択のところもあるが、多くは、スラックスとスカートから選択可能としている。数はそんなに多くはないが、選択肢にキュロットスカートがあるところもある。中に着用するものは、ワイシャツやポロシャツから選択可能としているところや、ベスト等を組み合わせて寒暖調節ができるところもある。

また、リボンやネクタイで学校を区別するとの案を前回お話したが、リボンを購入すると価格が高くなるため、価格を抑えるためにリボンを採用しないという学校の事例もあるため、柔軟に対応したいと考えている。

(委員)

スカートとスラックスは選択できるようにしたほうがいいと思う。

リボンの価格帯によっては、採用しない学校が出てくるのではと思う。また、制服の生地によって、価格に大きな差がでてくると思われる。

(事務局)

標準制服を導入することになった場合、生地指定までするところもあるが、大抵は一定の基準を満たしていれば、各メーカーが自由に選択できるようになっているため、それにより価格の幅（安いものと高いもの）ができると考えられる。

(委員)

アンケート結果から、制服があったほうがよい、そして見直したほうがよいという意見が多い以上、そちらの方に向いてとは思いますが、まだ具体的なイメージが出来ない人も多いのではないかと。全員を納得させることは難しいが、標準制服についての周知を重点的に進めていってほしい。個人的にはキュロットスカートも可能であれば採用してほしい。皆さんの理解をできるだけ得られるように、標準制服の利点を出せたらいいと思う。

(委員)

アンケートの最初からわからないと答えた人が一定数いるが、この人たちが賛成派か反対派につくかで変わってくる。どのような思いでわからないと答えたのかが不明だが、標準制服が具体的にイメージできないことが要因の一つであると思う。具体的な判断材料が必要ではないか。もし、標準制服を導入する方向性になる場合は、他の自治体の事例等について、校長先生を通じて皆さんにお伝えすることが重要になってくると思う。

(副委員長)

標準制服の導入是非については、導入準備を進めていくこととし、皆さんに納得いただけるよう説明を尽くすという方向でよいか。

(委員)

皆さんに納得いただく上で、標準制服の導入により各学校の識別が困難になるという意見に対してどのような工夫ができるか、というのも併せて検討してほしい。教員は、標準制服の導入について消極的な方が多いため、否定的な意見に対して説明できるものが必要である。

【論点4】 標準制服を導入する場合、優先・配慮すべきポイントは何か

(委員)

暑さ寒さへの対応、動きやすさといった機能性については、各学校がそれぞれ新しい制服に変えることでも対応できるが、標準制服を導入することで大きく異なるのは、価格が安くなるという点である。各学校で制服を変える場合と、標準制服を導入する場合による、価格の違いが伝わるようにしていかないといけない。その価格差が大きければ、標準制服に賛同する方向になるのではないか。

(委員)

一番納得を得られるのは価格だと思う。標準制服を導入する方向で話が進んでいるが、価格がかなり高額になるのであれば、間違いなく問題となります。

(委員)

セーラー服だと制服の下に着ている服が見えやすく、着ている服の種類や色等について先輩に指摘されることもあり、暑さ寒さに対応しにくいとの声がある。クール素材や温かい素材を使用したものや、中に着込んでも外に響かないような制服がよい。体操服の着用も認められていると、自分で暑さ寒さを調整しやすいので、そういった

対応も可としてもらえるとよい。あとは経済的な面も大事だと思う。

(副委員長)

アンケートに記載されている内容の他に、優先・配慮すべきポイントは何かあるか。

(委員)

カーディガン等について、色のみを指定して市販品を着用可能にすることは可能か。

(事務局)

いくつかの選択肢があり、標準制服としてベスト等のデザインを定める方法もある。ただ、採用するかどうかは各学校の裁量によるため、標準制服のベストではなく、黒のベストであれば市販品も可とするという学校もあれば、ベストそのものを制服として採用しない学校も想定される。そのため、標準制服としてベスト等を選択肢の一つとして定めたとしても、その後は各学校で相談して決めていただきたいと考えている。

(副委員長)

委員からいただいた意見については、今後、事務局が標準制服の導入準備を進める上で、仕様書に掲載するなどサポートメーカー等の関係者と共有しつつ進めてほしい。

【論点5】 標準制服のスタイルをどうするか

※資料3の標準制服の基本的な仕様と内容が関連しているため、資料3も併せて説明。
議事内容は「(2) 徳島市の標準制服について (資料3)」に記載。

【論点6】 標準制服の導入時期は

※意見なしのため、事務局の提案どおり令和9年4月導入予定として準備を進める。

【論点7】 従来制服の取扱いをどうするか

(委員)

標準制服と従来制服を選択できる期間が長い方がニーズに合っていると思う。小学校の場合だと、標準として最低限のものだけを指定しており、あとは自由に組み合わせるとするのが基本的な文化なので、保護者も子供たちも選択肢が多いほうが受け入れやすいかなと感じる。

(委員)

標準制服を採用するかしないかについては、各学校が判断をするということだが、基本的には令和9年度から標準制服が導入になるという点について、教育委員会から周知していただくことや、校長会で相談させていただけるとありがたい。

(事務局)

教育委員会としては、標準制服の導入を学校に対して強制することはできないため、採用するかしないかについては、各学校の判断に委ねることとなる。しかし、標準制服を導入した福岡市では、導入時期は学校に委ねるという方針は同じだが、校長会で導入時期について一定の調整がなされたようであると福岡市の職員から伺った。我々も、令和9年度から標準制服を導入する場合、事前に意向調査をさせていただき、各学校で混乱が生じないように、校長会と一緒に入らせていただいて調整させていただきたいと思っている。

(副委員長)

令和9年4月から標準制服が導入される予定だが、これは新1年生に限定するか、それとも在學生でも着用を認めるようにするか、どのような形がよいと思うか。

(委員)

新入生は新しい制服を購入する子が多いと思うが、在學生は、わざわざ新しい制服を購入する子は少ないとは思う。しかし、在學生でも購入したいという子を止める理由はないと思う。また、新入生でも、お下がりの制服があるから標準制服を購入しない可能性もあるため、従来の制服ともう一つの選択肢として標準制服が選択できるという事務局の考え方が一番自然だと思う。しかし、校長先生ごとにお考えがあるので、一度校長会で話をしてから決めるのもよいか。

(事務局)

その点についても併せて調整させていただく。

(委員)

保護者の中には、従来の制服と標準制服を混在してもらえるのか、一斉に標準制服に変えないといけないのではないかと不安に思っている人がいる。従来の制服でも学校に通えるということをお伝えしてもらえると、安心できると思う。

(副委員長)

いただいた意見について、事務局で対応をお願いする。

【論点8】 導入方式をどうするか

※意見なしのため、事務局の提案どおり各社縫製方式とする。

(2) 徳島市の標準制服について（資料3）

(委員)

本市すべての中学校間で制服リユースがしやすくなることが望ましいとあるが、既に制服がブレザーの学校については、標準制服を採用しない可能性もあるため、この一文は省いたほうがよいと思う。

(事務局)

本市すべての中学校間ではなく、標準制服を採用した中学校の間で、に修正する。

(委員)

色や各種アイテム等を使って学校の区別ができる提案を受けることとするとあるが、各種アイテムというのがわかりにくいので、後ろに「(リボンやネクタイ)」と追記してはどうか。色は各種アイテムの色のことだと思うが、この書き方だと制服自体の色だと思うのでは。

(副委員長)

制服の色について、基本となる色は紺色系とするとあるが、それでよいか。

(事務局)

基本となる色が紺色というのは、アンケート結果を基にしているが、他都市の事例を見ると、上下ともに紺色ではなく、ジャケットは紺色で下衣はグレーなど違う色の組み合わせや、柄があるものもある。また、紺色の中にも、他の糸と混ぜたような風合いの色もある。基本の色は紺として、あとは決まったサポートメーカーの提案を受けながら決定したい。

今後の流れだと、12月の選考委員会でサポートメーカーが決定し、12月の末頃に次回検討委員会を開催してサポートメーカーと打ち合わせをする予定である。その際に、サポートメーカーから基本の提案を受けた中で、配慮してほしい点や要望を伝える機会がある。

(委員)

仕様の中で紺色系と指定してしまうと、紺色の提案しか出てこないのでは。

(事務局)

アンケートで1番多かった意見は紺色であるが、2番目に多かった黒色、3番目に多かった灰色の3色のいずれかで提案を受けたほうがよいか。

(委員)

そのほうがよい。最終的に紺色になるかもしれないが、実際にデザインや写真で見比べてみると違ってくると思うので、提案の種類は多いほうがよい。

(事務局)

では、仕様の基本となる色は、紺色系、黒色系、灰色系のいずれかに修正する。

(副委員長)

事務局には、いただいた意見を反映し仕様書を修正してほしい。

(3) サポートメーカー選考会について (資料4)

(委員)

先ほどの議論の中で、価格の話が何度も出ているので、評価基準の審査項目のうち、経済性の配点(10点)を増やしていただきたい。デザイン・コンセプトの審査項目の配点が20点であれば、経済性についても20点はあったほうがよい。

(事務局)

では、経済性を20点とし、協力関係・信頼性の配点を30点から20点に変更させていただくのでよろしいか。また、審査会の委員からもご意見をいただいた上で、内容を修正するかもしれない。

(副委員長)

それでは、委員からいただいた意見を反映し、内容の修正を行った上で、事務局において、サポートメーカー選定手続きを進めること。